

図 17 各試験区における *Chattonella antiqua* 細胞減少率の推移 (試験②)

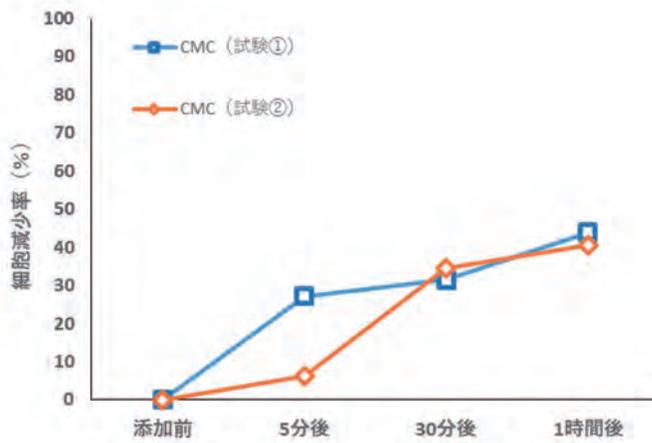


図 18 CMC 型に関する試験①と試験②の *Chattonella antiqua* 細胞減少率の比較

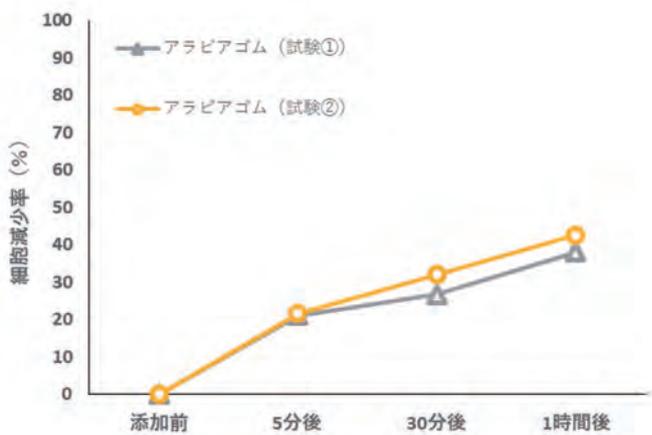
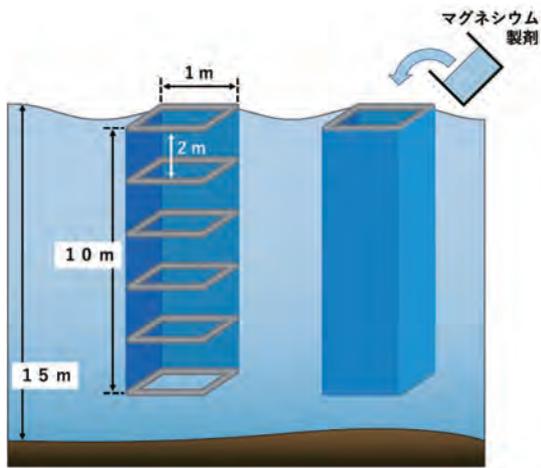


図 19 アラビアゴム型に関する試験①と試験②の *Chattonella antiqua* 細胞減少率の比較

(A) 大分県海域



(B) 長崎県海域

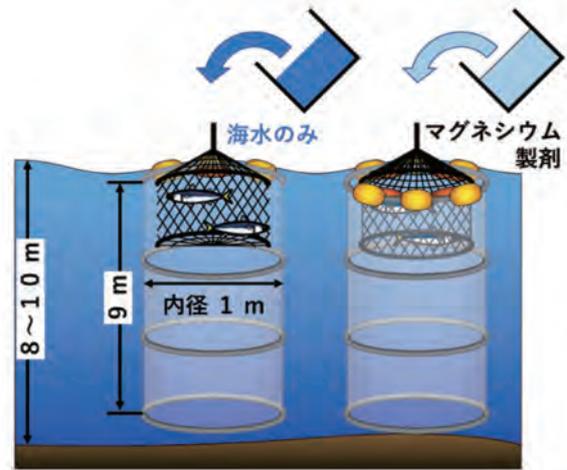


図 20 マグネシウム製剤散布試験の概要. (A) 大分県海域での試験, および (B) 長崎県海域での試験.

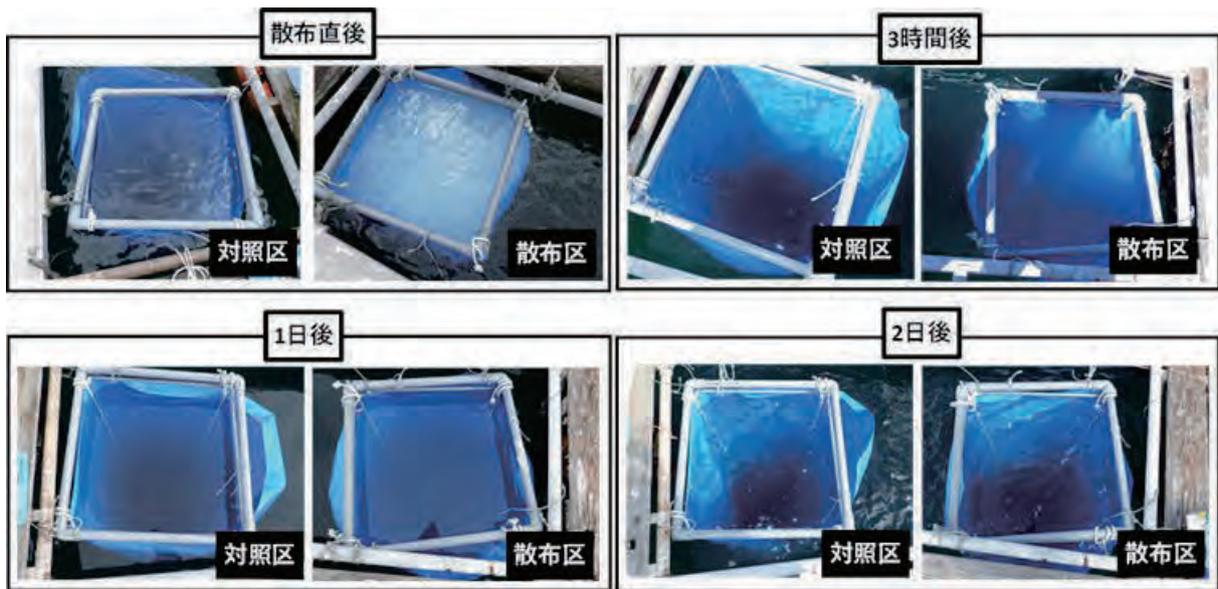


図 21 マグネシウム製剤散布直後から散布 2 日後までの経過

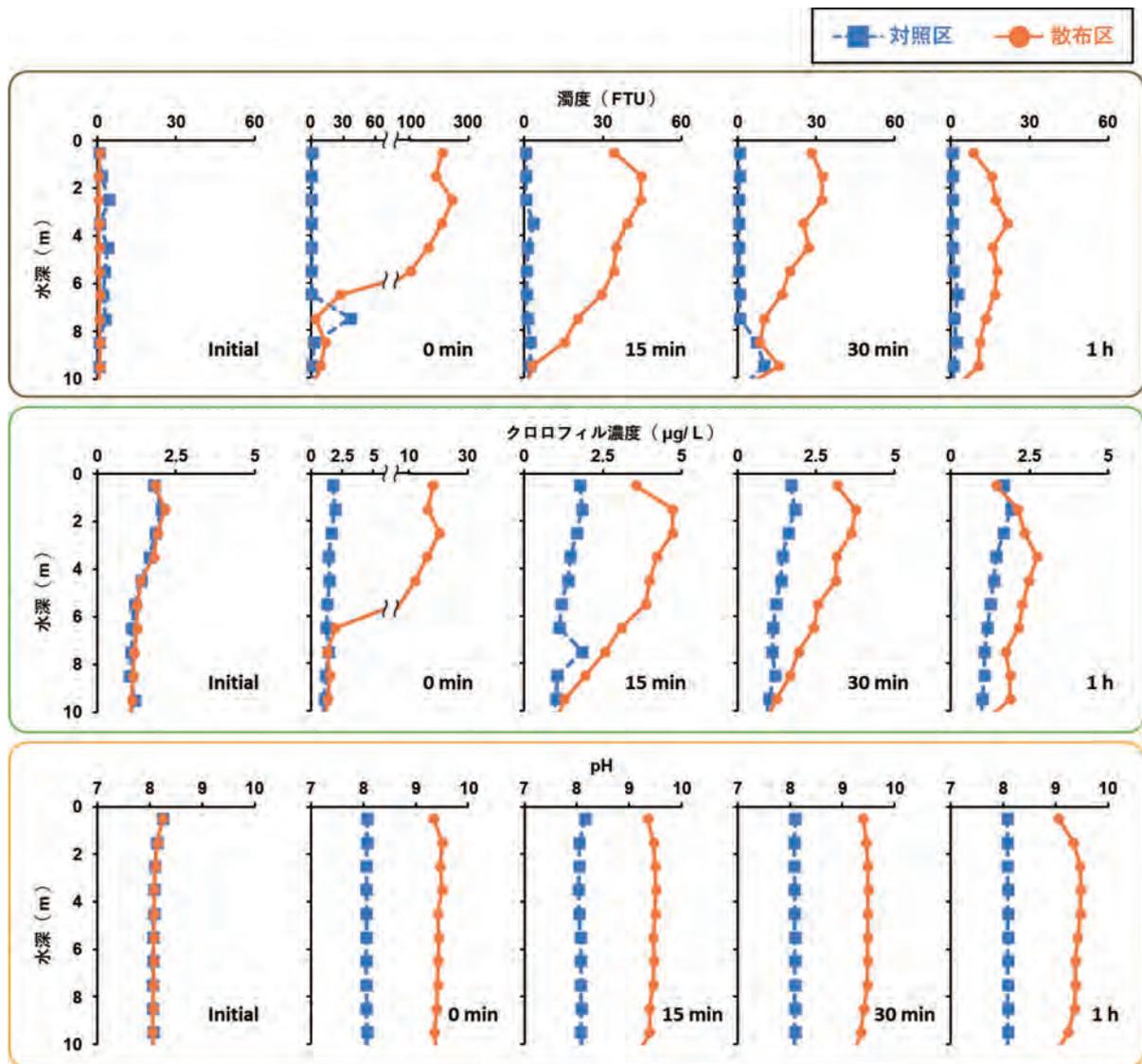


図 22 大分県海域におけるマグネシウム製剤散布後の水質環境に関する鉛直プロファイルの経時的変化 (散布後 0~1 h まで). なお, Initial は, 散布前の観測結果を示す.

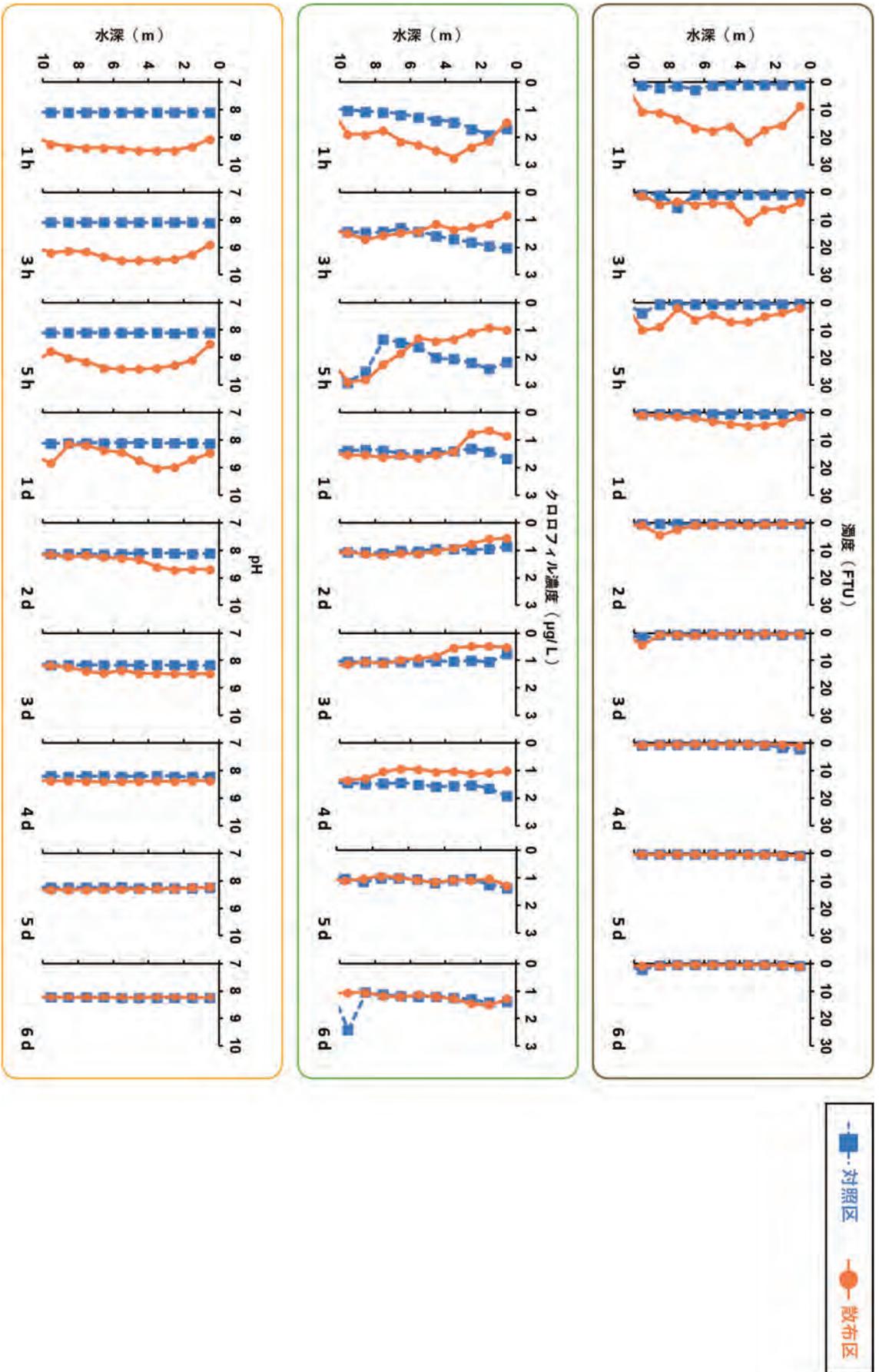


図 23 大分県海域におけるラゲネシウム製剤散布後の水質環境に関する鉛直プロファイルの経時的变化 (散布後 1h～6d まで)

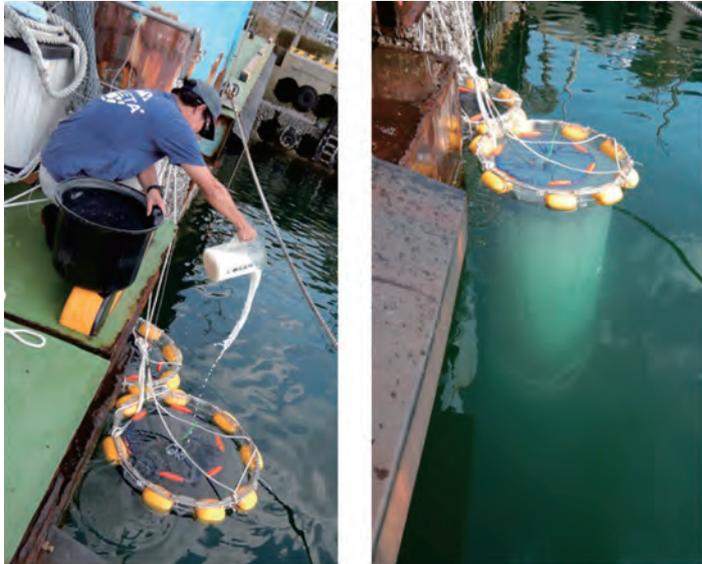


図 24 長崎県海域におけるマグネシウム製剤散布時の様子

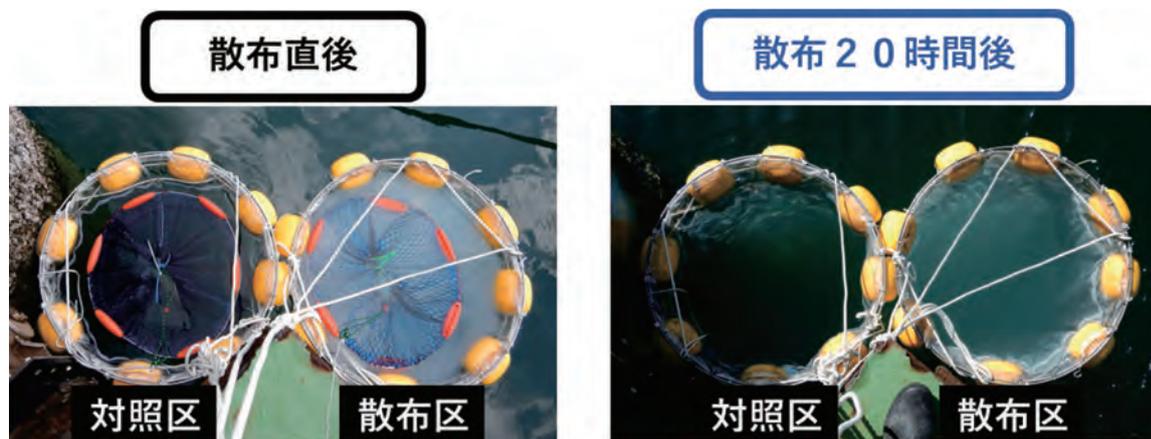


図 25 マグネシウム製剤散布直後（左）と散布 20 時間後（右）の様子

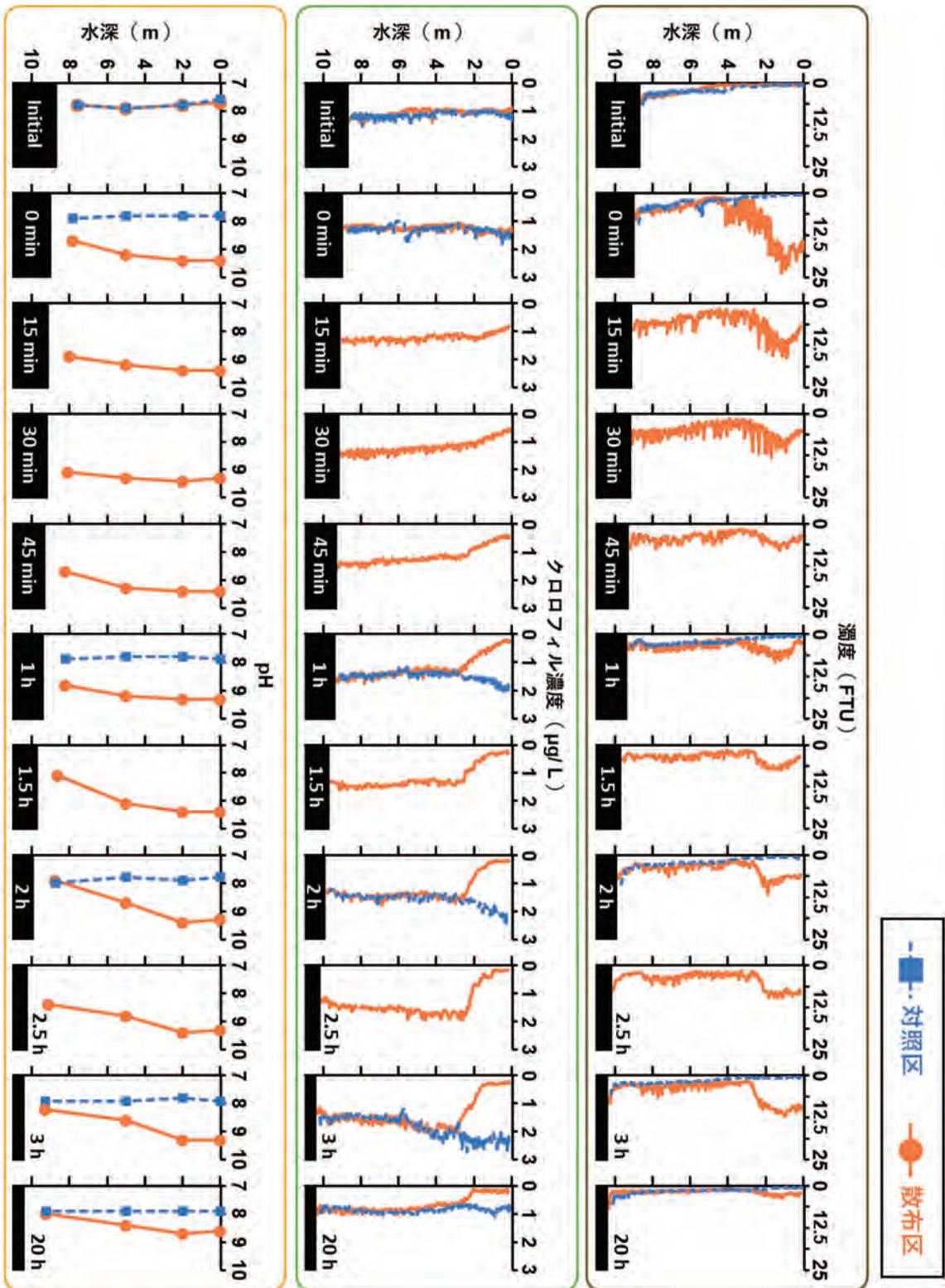


図 26 長崎県海域におけるワグネシウム製剤散布後の水質環境に関する鉛直プロファイルの経時的変化

表2 マグネシウム製剤散布3時間後における供試魚の生残状況

	生残尾数 (生残率)	備考
対照区	10尾 (100%)	
散布区	0尾 (0%)	試験期間中に1尾逃げだし、 回収できた供試魚は9尾であった。

表3 マグネシウム製剤散布試験における供試魚の経過観察

散布後の 経過時間 (分)	対照区	散布区
0	変化なし	散布直後から供試魚の鼻上げ行動が確認される。
15	変化なし	海水が白濁し、観察できず。
30	変化なし	海水が白濁し、観察できず。
45	変化なし	2尾横たわる。
60	変化なし	9尾横たわる。鰓蓋が開いた状態となる。
90	変化なし	9尾の死亡を確認。1尾 不明。